

活動報告：ぶんぶんひろば

1、活動のねらい

平成25年度に4年目を迎えたぶんぶんひろばの活動には主として3つのねらいがある。1つ目は就学前の子どもとその家族を支援することである。近隣の子育て家族への子育て支援という地域貢献は重要なねらいである。また、2つ目は、学生の教育への活用である。このセンターが位置する広島文化学園広島 長束キャンパスには、大学に1学部2学科、短期大学に3学科があり、それぞれの学科の目標を達成するために、このひろばの存在が大いに役立っている。子どもたちの生き生きとした反応を体験できる機会として非常に貴重であり、授業への活用は年々増加している。子育て家族の協力は本学の教育に大きな貢献となっている。さらに、3つ目は、子育て支援に関する研究である。特に組織としては全体的な研究を進めにくい状況ではあるが、各学科から選出された運営担当教員は個々の研究課題を抱え、今後に向けて準備を進めている。

2、活動の内容

(1) 地域貢献としての活動

ぶんぶんひろばの地域への開放は平成25年度で4年目を迎えた。今年度は学園の耐震改修工事のために4月～5月は休止とした。6月からは開始を待ちわびていた近隣の家族の来場で、例年通りの参加者数となった。参加の状況を表1に示す。特別の広報活動は行っていないが、ホームページが定着し、口コミやミニコミ誌等の広報により、近隣の子育て家族によく知られるようになった。平均して一日に約20組の来場があった。

表1 平成25年度の実施回数と利用状況

月	2013/ 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2014/ 1月	2月	合計
実施回数			8	9	3	2	9	8	6	7	4	56
利用組数			201	251	48	36	151	138	91	130	58	1104
平均利用組数			25.1	27.9	16.0	18.0	16.8	17.3	15.2	18.6	14.5	19.7
利用者数	子ども		242	314	65	45	202	184	117	174	83	1426
	大人		205	256	51	37	156	140	91	132	58	1126
	合計(人)		447	570	116	82	358	324	208	306	141	2552

耐震改修工事

(2) 教育における活用

①授業での活用の実態

今年度は、学芸学部子ども学科の「造形表現」「小児保健実習」、音楽学科の「演奏活動Ⅰ・Ⅱ」、短期大学食物栄養学科専攻科の「栄養指導特論Ⅱ」、保育学科の「家庭支援論」などの授業科目での活用があった。例年、音楽学科の「演奏活動」で実施される「ミニコンサート」では、参加者は近くで実際の楽器を見ることができ、その音を楽しむことができるかと好評である。本学の卒業生が子どもを連れてきてくれるようになり、卒後支援の1つとなっている。また、食物栄養学科では今年度、新しい子育て支援活動として「食育講座」が実施され、クリスマスメニューの調理実習がおこなわれた。その際、託児ボランティアとして保育学科の2年生が参加した。料理教室も託児も好評であった。子どもたちも日頃遊んでいる環境ということで、あまり泣かず、子どもに負担の少ない託児となったと考えられる。

②その他の活動

授業以外の教育の活動として、サークルの利用があげられる。短期大学の「保育技術サークル」は毎週火曜日の昼休み利用し、手遊びと絵本の読み聞かせを行っている。子どもたちの反応を実際に学ぶ貴重な機会となっている(写真1参照)。



写真1 サークルメンバーによる読み聞かせ

(文責：短期大学 保育学科 田頭 伸子)